

# 大規模洪水対策シンポジウム 低平地都市水害への備え

リバーフロント研究所 後藤勝洋

2015年3月17日、宮城県仙台市において、第3回国連防災世界会議のパブリック・フォーラムとして、「大規模洪水対策シンポジウム～低平地都市水害への備え～」が国土交通省水管理・国土保全局の主催により開催されました。当研究所は、事務局として本シンポジウムの運営補助を行いました。

本シンポジウムは、“地球温暖化に伴う気候変動の影響により、水害の頻発、激甚化が懸念され、特に低平地都市では高い水害リスクを抱えているという実情に着眼し、諸外国での対策事例や水害を経験して得られた教訓を紹介し、大規模洪水対策への備え方について多様な視点から議論すること”を目的に、基調講演ならびにパネルディスカッションが行われました。シンポジウムの概要を以下に示します。

## 大規模洪水対策シンポジウムプログラム

<b>主催者挨拶</b>
池内幸司 (国土交通省水管理・国土保全局長)
<b>基調講演</b>
講演①：オランダにおける新たなリスクベース洪水管理政策「デルタ計画」 ヨス・ファン・アルフェン (オランダ・社会基盤環境省 デルタ計画コミッショナー)
講演②：レジリエントな高潮対策 ジョヴァンニ・チェッコーニ (イタリア・ベネチア事業連合)
講演③：豪雨災害と三条市の防災対策 ～災害に強いまちづくりを目指して～ 國定勇人 (三条市長)
<b>パネルディスカッション</b>
■コーディネータ 山田 正 (中央大学教授)
■パネリスト ヨス・ファン・アルフェン (オランダ・社会基盤環境省デルタ計画コミッショナー) ジョヴァンニ・チェッコーニ (イタリア・ベネチア事業連合) 國定 勇人 (三条市長) 高井 聖 (江戸川区土木部長) 土屋 信行 (NPO 法人市民防災まちづくり塾)

### ■基調講演①：オランダにおける新たなリスクベース洪水管理政策「デルタ計画」

- ・オランダは、国土の60%が洪水危険地域であり、約900万人が洪水時の水位より低地に居住している。
- ・「デルタ計画」は、現在及び将来世代にとって、オ

ランダを引き続き住みやすく働きやすい、安全かつ魅力的な場所にするを目的とした長期的な観点を有した計画であり、2010年に策定された同計画は、洪水の防御だけでなく、土地利用計画や避難などの災害管理の概念も含んでいる。

### ■基調講演②：レジリエントな高潮対策

- ・ベネチアのラグーンにおいては、沿岸帯の保全、干潟の復元、汚染地域の保護、都市のレジリエンス向上と合わせた高潮対策として、「モーゼ計画」が進められている。
- ・「モーゼ計画」の主軸となるのが沿岸に整備された「可動堰」であり、使用されている21基のフラップゲートは、高潮時以外は海面下にある基礎のケースに納まっており、作動時には空気がゲートに注入され、その浮力によってゲートが起き上がる仕組みとなっている。

### ■基調講演③：豪雨災害と三条市の防災対策 ～災害に強いまちづくりを目指して～

- ・近年、新潟県三条市では、2004年7月13日と2011年7月29日の2度、大規模な水害を経験している。2004年の水害では死者が9名であったのに対し、2011年の水害の死者は1名であり、2004年の水害での経験を踏まえて実施した対策が功を奏したと言える。
- ・ハード面では、河道拡幅及び築堤による河川改修事業が行われ、河川の流下能力が大きく強化されたことで、2011年の水害では破堤がなかった。ソフト面では、防災無線などの避難情報伝達手段の整備や、豪雨災害対応ガイドブックの配布が役立った。

### ■パネルディスカッション

パネルディスカッションの協議結果として、コーディネータの山田正教授より以下のとおり総括がなされました。

“大規模洪水に備えるには、着実なハード対策とソフト対策に加え、防災教育、情報や人のネットワーク、そして災害の経験を未来に伝える努力が重要である”。

本シンポジウムには、国内外から295名の参加があり、大規模災害へ備えることについての関心の高さが伺われるものでした。



シンポジウムの様子